

(図7)

野球肘に対する関節鏡手術後。
手術の傷はきわめて小さい



●手術後の経過

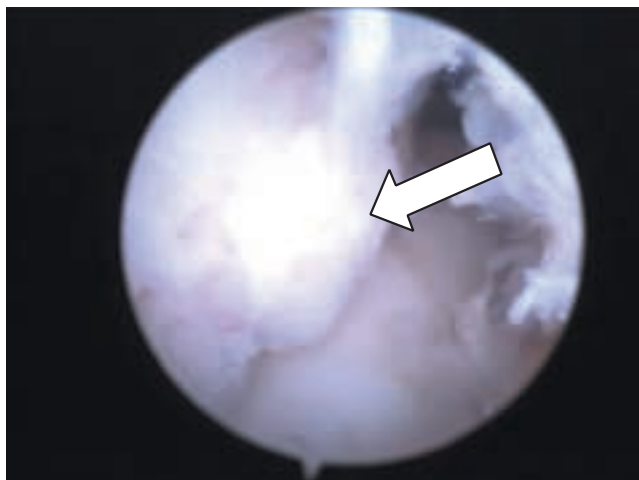
肘関節鏡手術は他の部位の関節鏡手術に比べても、皮膚を切開して行った場合との術後安静期間の差が極めて大きいといわれています。

手術後は翌日より三角巾で歩行可能です。三角巾も2～4日ではずせる場合が多くあります。多くの場合は特別のリハビリは不要で、2～4週で運動復帰が出来ます。離断性骨軟骨炎ではやや長くなりますが多くの場合3～4ヶ月で投球練習開始、離断性骨軟骨炎がなかった場合には1ヶ月で投球可能となります。

3. 足関節鏡手術

●対象となる疾患

- ① 捻挫後遺症：足の捻挫のあと数ヶ月を経ても疼痛が残っている場合、離断性骨軟骨炎（軟骨の損傷）や関節内遊離体を起こしている場合がある
- ② 衝突性外骨腫：足関節の前方や後方部分に骨のトゲが発生し運動時の痛みの原因となっている場合がある（図8）



(図8)

39歳 空手選手

足関節を前上方外側からみているところ。矢印部分は骨棘（骨のトゲ）が日さし状に突出し足の動きで疼痛の原因となっていたためカメラ下で切除した